



学校だより

8月号

令和2年7月31日

横浜市立洋光台第三小学校

校長 金澤 智美

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yokodai3/>

異学年の交流から学ぶこと

こうちょう かなざわ ともみ
校長 金澤 智美

ようやく梅雨が明けようとしています。子どもたちは、雨にも負けず、風にも夏の暑さにも負けず、6月の学校再開から2ヶ月をそれぞれのペースで乗り越えてきました。今月は、段階的な学校再開の第三期として給食も始まりましたが、子どもたちは新しい生活様式を柔軟に吸収し、静かに給食を味わうことができ、事前の心配も杞憂に終わりました。

「3つの密を避ける」という生活様式は、大勢の児童が過ごす学校においても、お互いの安全を守るためのベースとなっています。そのため、異学年児童が同時に集まる場や交流する機会も、制限せざるを得ない状況が3月から続いています。

その中で、6年児童がついに動き出しました。例年なら、最高学年として入学式の前日準備や登校班のリーダーとして既に活動を始めていたはずの6年生です。1年生の教室へサポートに行くこともままならず、うずうずしていたに違いありません。まずは、6年生教室から1年生教室へのリモートでの交流に挑戦し、手ごたえを得たようです。

その後、15日には、テレビ放送を利用して「1年生となかよくなる会の会」を行い、各学年からのお祝いのメッセージを1年生に伝えることもできました。4年生以上のクラブ活動や、5・6年生による委員会活動も始まり、生き生きと取り組む姿が見られました。

21日には、異学年交流の場である「ケヤパ活動」において、グループごとの顔合わせを行いました。1年生から6年生を縦割りの24グループに分けて、年間を通して交流を重ねていく活動です。どのグループにおいても、6年生がリーダーシップをとる姿が大変凛々しく、この時を待ち構えていたかのような輝きを感じました。また、下級生が互いの話を真剣に聴き合う姿にも、心が温かくなりました。

洋光台第一中学校ブロックの3校では、小・中の9年間を通して育成を目指す資質・能力として「自分づくりに関する力」を掲げています。そのもととなる「自分づくり（キャリア）教育」は、自分に自信をもち、自分の役割を意識し、まちの一員として貢献していくことで、夢や希望、目標をもてる子どもを育成する教育です。本校では、授業や行事、様々な活動を通して、自分づくり教育で身に付けさせたい「自己肯定感」、「コミュニケーション」、「地域貢献・社会参画」という3つの力の育成を目指して取り組んでいます。ケヤパ活動もその中の一つです。コロナ禍で困難があろうとも、自ら学ぼうとする子どもたちの力を信じて、指導・支援をしてまいります。

夏休みを迎え、地域や家庭に子どもたちが帰ります。一回りたくましくなった子どもたちと、8月後半も元気に過ごすことを楽しみにしています。今後とも、どうぞよろしく願っています。